



須恵町議会 議長
松山 力弥



新年



須恵町 町長
平松 秀一

謹賀

新年明けましておめでとうございます。清々しい令和8年の新春を迎え、町民の皆さまには健やかに新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、まちづくり全般にわたり、町民の皆さま、議会、行政区、各種団体、そして事業者の皆さまの温かいご支援と深いご理解、ご協力を賜り、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は将来にわたり「住んで良かった」と思える須恵町を築くため、喫緊の課題への対応と未来を見据えた基盤づくり、職員一同、全力で取り組んでまいりました。特に力を注いだのは、安心して子どもを産み育てられる環境づくりです。町長就任以来、最重要課題として取り組んでまいりました「子ども医療費助成制度」につきましては、本年4月より、助成対象を高校生世代まで拡充いたします。これは、「子育て世帯への経済的な支援を強化し、町民の皆さまにとって望ましい保健医療サービスを提供するために、近隣町と時期を合わせて実現するものです」。

少子化対策においては、福岡県の創設した事業を活用し、令和7年9月分から、第三子以降の未満児（0歳～2歳児）の保育料を無償化としています。これは、多子世帯の負担を大きく軽減するものです。さらに、育児休業中の家庭のお子さんの継続利用を可能とする「育児休業退園制度の廃止」を実現し、子育て世帯の不安や負担の軽減に努めてまいりました。

教育の面においては、須恵町の未来を担う子どもたちの豊かなスポーツ・文化芸術活動を実現するため、令和5年度より段階的に、学校と地域の連携・協働による部活動改革へ取り組んでいます。本年は、国が示す部活動の「改革推進期間」から改革

「町民の皆さま目線の活動を第一に」

町民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。須恵町議会を代表いたしまして、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆さまには、夢多き初春を健やかに迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また、旧年中は、議会運営に格別のご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。

地方自治体を取り巻く環境は依然として厳しく、少子高齢化による地域経済への影響、インフラの老朽化と財政難、環境問題と持続可能なまちづくり、自然災害への備えと防災対策など、実施すべき課題が山積しております。こうした中、町議会は、政策形成や多様な町民の皆さまの意見の集約・反映、利害の調整を通じて、意思決定機関として、また執行機関の監視・評価機関としてその役割を果たしていきたいと思っております。

そのためにも、議会改革を進めることが必要です。当議会といたしましては、昨年3月定例議会において「須恵町議会基本条例」の制定を議員発議し、可決後、令和7年4月1日に施行いたしました。この条例は、議会の最高規範といえる条例で、議会の活性化と充実強化など、議会の在り方を町民の皆さまに宣言するものであります。

須恵町議会は、今後この条例に沿った活動を行い、町政の進展と町民の皆さまの福祉向上に寄与していきたいと考えております。

議会基本条例に謳っている議会報告会
実行期間へと移行するため、本町においても一部の部活動を対象に休日の活動を地域クラブ活動として本格的にスタートします。今後は、教員や保護者の負担へ配慮しつつ、持続可能な活動環境を構築しながら展開してまいります。教育環境の整備においては、熱中症対策として須恵第一小学校体育館の空調設置工事を含む長寿命化改良工事、教室不足に対応するための須恵第三小学校の増築工事などを計画的に実施することで、児童生徒が安全で快適に学べるよう努めます。また食育の面においては、栄養バランスと安全面に配慮し、現在中学校で行なっている選択制のランチサービスから、全生徒を対象とした弁当方式の給食への変更を、令和8年度2学期の開始に向けて計画しております。

さらに令和8年度以降は、子どもたちの体験活動をより豊かにするため、旧須恵区公民館を宿泊利用が可能な施設にリノベーションし、学年や世代を超えて学び、交流し、つながる「新しい地域のコミュニティ拠点施設」を目指します。

一方、昨年は持続可能なまちづくりの核となる「立地適正化計画」の策定を本格的にスタートさせ、将来を見据えた「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりの骨格を描き始めました。本年は、昨年の成果を礎とし、次の施策を重点的に推進してまいります。

まず、持続可能なまちを支える重要なインフラ整備を力強く進めるため、ごみ処理施設の令和10年3月の完成を目指し、建設に向けた取り組みを引き続き行なっております。また、老朽化が進むし尿処理施設の建て替えについても、計画を具体化させ、将来にわたり安定した生活基盤を維持してまいります。

その他にも、昨年4月から始まった带状疱疹ワクチンの定期接種化を確実に実施し、須恵町独自の助成も継続してまいります。また、母子保健の新たな事業として、おたふくかぜワクチンの費用助成など、ライフステージに応じたきめ細やかな健康支援を引き続き行なっております。

さらに、安心して暮らせる地域社会を維持するため、生活の足となる地域公共交通体系の維持は喫緊の課題です。西日本鉄道株式会社からの廃止申し入れがあった路線バスについては、町のバスによる新規路線の代替運行を決定し、途切れなく町民の皆さまの重要な移動手段を確保してまいります。

須恵町を取り巻く社会情勢は急速に変化し、課題は多様化、複雑化しています。こうした中で、行政組織の効率化・活性化を図る行政機構改革の検討を引き続き行い、町民の皆さまの声をしっかりと受け止め、未来を見据えた着実な歩みを進めてまいります。

本年も、町民の皆さまお一人お一人が、須恵町に暮らすことに誇りと愛着を持てるよう、「ともに思い、ともに創り、ともに生きる」を基本理念に、職員一同、誠心誠意まちづくりに尽力してまいります所存です。

結びに、皆さまのこの一年が、明るく希望に満ちたものとなりますよう心よりお祈り申し上げ、新年のごあいさつとさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和八年 新春

須恵町 町長
平松 秀一

整備補助金にどう影響されるか危惧されます。

最近、国や県の政策が、町の意思とは関係なく町の財政負担を強いるケースが多々あります。町の負担は、町民の皆さまの負担となります。町民の皆さまにとって何が必要なのか、見える化を図りながら議論すべきと考えます。町の財源は、町民の皆さまのものです。

政治により、町民の皆さまの生活が良くも悪くもなります。我々議会も政治に携わる者の一人として、町民の皆さま目線の活動を第一に考えていきたいと思っております。

結びに、本年が皆さまにとりまして幸せで実り多く、大いなる飛躍の年となりますことを心よりお祈りし、新年のごあいさつとさせていただきます。

令和八年 新春

須恵町議会 議長
松山 力弥

